

シリーズ 「研究者をめざすあなたからメッセージ」

なぜ工学系の女性研究者が少ないのかという質問ですが、まず、文系に比べて理系女子が少ないです。そして、博士課程に進学する女子はほとんどいません。企業就職を考えると修士までの進学は有利になりますが、博士課程まで進むととたんに不利になってしまう。さりとて少子化の中、教員の道に進むのも厳しい。女性だけではなく、若手研究者の受け皿が少ないのが現状です。

私は、あまり男女の区別を感じずに育ちました。「女の子なんだから」と両親から言われたこともありません。高専に進学することを進めてくれたのは母でした。数学と理科が得意な理系だったので、中学生で工学系に進むと決めました。女の子の人数が少ないことなど気にもしていなかった。高専卒業後、徳島大学の3年次へ編入し、4年生の研究室への配属で恩師に出会い、研究活動の楽しさに目覚めました。1年では物足らず修士に進学。海外発表等も経験でき、視野がぐっと広がりました。

修士時代に恩師が「博士に行ってみないか」と背中を押してくれました。研究分野で出会った先生方は大変素晴らしい方ばかりで、こんな出会いがあるならと進学を決めたものの、博士課程はそれまでとは全く異なり後悔もしました。博士課程に進んだ他大学の人は優秀な方ばかりで、自分には力がないと思えてきて、求められるレベルはどんどん高くなり、アイデアは出て来ず、こんな研究じゃだめだと本当に苦しかったです。しかし、後輩の教育を任されるようになり、研究教育で後輩が成長していくのが励みになりました。企業では、後輩教育の失敗は企業の損失に繋がりますが、大学ではその人の成長に繋げることができる。大学では、損得ではなく、その人の為になる研究を通じた教育を考えることができるのです。研究だけではなく教育にも興味を持ち、アカデミックでの研究者になりたいと思いました。



工学部
松下 春奈先生

“失敗は、企業では損失につながるが、
大学教育では、その人の成長につながっていく”と思う。
“大切なのは、一生懸命さと真面目さ、そしてコミュニケーション能力”

女性研究者は昔に比べたら得していることも多いです。就職や研究費の面で女性にむけたものが優先して利用できる。しかし、同じ立場の若手研究者として男性が苦勞している現状を思うと、少しうしろめたい気持ちになることもあります。

確かに日本に比べ、海外の理系研究者は女性が多いですが、海外には女性も男性も、研究と家のことを両立できるシステムがある。仕事の量が少ないというよりサポートの手立てが整っている。ハウスキーピングやベビーシッターが利用しやすい。日本では男性が子育てをしたいと思っても、忙しすぎて「育児休暇をください」と言いづらい状況。女性の研究者の採用率を高めたり、研究費を増やしたりだけでは状況は大きく変わらないでしょう。仕事と家のことを両立できる環境を、女性だけではなく、社会全体で考えることが大事だと思います。

今の若い人達にぜひ伝えたいことは、遊ぶのも勉強するのも一生懸命すること。真面目さと一生懸命さはすぐに身につかない。一生懸命やることはかっこいいのだと認識を変えた方がいい。それから、コミュニケーション能力も大きいです。勉強ができて、研究ができて、結局、ものをいうのはコミュニケーション能力。私は、学会活動での人間関係がよい刺激になり、いろいろな価値観、研究分野の現在のトレンドトピックの情報を得ています。チャンスはそこから広がる。しゃべるのが下手なら「聞き上手」になればいいんです。得意不得意ではなく、一生懸命誠実にすることと、人と積極的に関わることを大事にして欲しいですね。

工学部信頼性情報
システム工学科へ、
1月に赴任されたばかりの松下春奈先生
にお話を伺いました。先生のご専門は
非線形工学。女性が少ない電気系分野の
若手研究者として今後の活躍が大いに期待されます。

